



学校教育目標

「夢をいだき、強くたくましく生きる子どもの育成」 令和2年2月14日 No.21

～日々に新たに、地域と子どもの未来に向かって～

文責 校長

雪と遊ぼう集会（雪まつり）

2月10日（月）に雪まつりを開催しました。暖冬小雪で心配しましたが、お祭りに合わせたように雪が積りました。快晴の中で雪像コンクール、雪合戦、たすけ鬼をしました。雪像は校舎と鉛筆塔、雪だるまのお家をつくりました。久しぶりに子どもたちの歓声が二林台に響きました。



♪一緒に校歌を歌いましょう♪

3月31日に下記の日程で学校を施錠する予定です。施錠前に簡単なセレモニーを行います。保護者・地域の方々も参加して一緒に校歌を歌いませんか。

当日及び春季休業中も校内見学が可能です。

16時30分 職員玄関前(外)で校歌斉唱
16時40分 学校施錠完了、解散

詩集「たろっぺ」

能代山本国語教育研究会

入選 4年 佐藤 英
5年 荒木 汐音

佳作 1年 清水万理恵 三熊桃佳
2年 大森羽海 三熊日南乃
3年 大高優芽 清水良太
4年 淡路大心 三熊遥斗
6年 須合愛萌

※裏面に入選作品を紹介しています

最高のアトラクション

朴瀬小四年 佐藤 英

閉校式のアトラクションが始まった。
まずは、朴瀬小ができたころの先生の役。
着替えが間に合わない。
ドキドキ。
せりふがちゃんとと言えるかな。
ドキドキ。
ぼくが最初にせりふを決めないと、
子ども役の四人がせりふを言えない。
ドキドキがマックスだ。
服のボタンをしめながら、ぶ台に向かった。
まくが開いた。
「今から百四十四年前……」
「おんさんの声。」
「学校はその向かいにありました。」
胸のおくまで息をすった。
ぼくは、先生。
「きりつ。おんどく。」
「およそ、せかいに じゅうきよするひとに
ごしゅあり。」
子ども役四人は、
むずかしいせりふをすらすら言っている。
すごい。
ドキドキは消えた。
「つぎは、さんじゅつ。」
本番は、最高だ。



ナレーターをつっこみ

朴瀬小五年 荒木 汐音

今日は、閉校式。
この日のために、全校でがんばってきた。
四、五、六年生は、
百四十四年前にタイムスリップして
朴瀬小の歴史をたどっていく劇。
私はナレーターの役。
声の大きさ、口のあけ方。
気持ちのこめ方とタイミング。
どれも大事で大変だ。
舞台にいるみんなががんばっている。
登場人物の名前は、
実際にその時代にいた人たち。
タイムスリップした六年生は、
おじいちゃんやおとうさんの名前で呼ばれる。
会場からは笑い声が響く。
小林一成さん役の愛萌さん、
鷺尾弘さん役の愛心さんが、
会場に向かって自己紹介。
「よろしくっ。」
と手を上げる。
「いったいだれに向かって話している
のでしょね。」
すかさず私はつつこんだ。
会場が大笑い。
やった、これを待っていたんだ。

